

令和7年度 江戸川区立北小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○心豊かでやさしい子 ○よく考え表現する子 ○体をきたえ元気な子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「凛と輝く、北小」を経営の基本とし、「共に育み、共に育つ、開かれた学校」を目指す。 ○「礼儀正しい子」「しなやかで心のある子」「すすんで学ぶ子」の育成を目指す。 ○「子供たちとともに学び、よき社会人であろう」を目標に健康維持増進、サービスの厳正、信頼関係と協働体制、地域の一員としての行動、学ぶことへの努力ができる教師
前年度までの本校の現状	成果 特別活動を校内研究として取り組み始めたことで、児童の中に話合うことに対する抵抗感が減り、生活指導面でも伝え合いながら問題解決する児童が増えてきた。	課題 ・4月の学力定着度調査の結果では、5年生では区の正答率を0.04ポイント上回ったものの、D層のばらつきが見られた。4年生では区の正答率を0.05ポイント下回り、中央値と平均値が同じであった。これらのことから、授業改善と学習内容の定着に向けて、改善に努める必要がある。 ・学級に支援が必要な児童が多くいる場合の授業展開や支援の在り方について解決策を探る。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	授業改善の推進	・校内研究を軸とした特別活動の実施 ・分かる授業の推進	・年7回の授業研究の実施 ・1学級年3回以上の授業観察実施	B	B	B	授業研究は2年、音楽、5年の3回が終了。授業観察は1学級2回終了	B	授業改善の取組は行われているが、児童の変化等の成果があると分かりやすい。	B	授業が分かりやすいかというアンケートでは、95%が肯定群であり、効果があったと考える。	B	授業改善が何故行われているかの状況等が分かりやすい。	なぜ授業改善か、どのような取り組みかについて説明する機会をあらゆる機会を通して伝える。
	ICTを活用した更なる学習の推進	・タブレット端末を活用した学習記録「学びのアルバム」の実施 ・学習で「ドリルパーク」を実施	・全学年で実施	B	B	B	学びのアルバムやドリルパークは全学年で活用するようにしている。	B	学習した内容をとりためる学びのアルバムはとて面白い取り組みである。タブレット端末を活用する機会が増えることはよい。	B	全学年での取り組みはできているものの、学年による活用の差があった。児童の78%はドリルパークの学習を肯定的にとらえている。	B	タブレット端末の功罪を検討すべき。興味関心の向上はよいが、困った使用法については課題である。	タブレット端末の活用の功罪を校内でも話し合い、ルールや使い方等について校内で統一して取り組む。
	読書科の更なる充実	・PTAの読み聞かせ活動との連携 ・小岩図書館の司書との連携	・全学年で年間10回以上実施 ・本の紹介や読み聞かせを学期に2回以上実施	B	B	B	PTAと連携しながら朝の時間に読み聞かせを行っている。小岩図書館の司書とは学習関係での連携を行っている。	B	児童が読書に対してどのような印象があるか知りたい。司書と児童との接点が具体的に知りたい。	A	読書科は好きかというアンケートでは81%の肯定群であった。低学年への読み聞かせや授業等で司書と連携できた。	B	読み聞かせは低学年と高学年で温度差がある。学校の対応について検討が必要である。	PTA担当者と連携や共有を行い、学校とPTAが共に同じ方向を向いて取り組めるようにする。
体力向上	運動意欲や基礎体力の向上	・年10回の運動遊びの取組 ・年7回の運動能力向上のための時間の設定	・児童アンケート肯定群90%以上	B	B	B	ぐんぐんタイム、わくわくタイムという体力向上に向けた時間を設定し、意欲の向上につなげている。	B	工夫をしながら体力向上に向けた取組を行っているので、児童のアンケート結果が気になる。	C	わくわくタイムを楽しんでいる肯定群は80%、体育の学習が好きな児童の肯定群は89%で、どちらも90%以下。	B	目標の再検討が必要。	意欲の向上だけでなく、取組結果等も考慮しながら取り組みを判断できるようにする。
共生社会の教育の実現に向けた	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室環境のユニバーサルデザイン化 ・学級担任、巡回指導教員、特別支援専門員との連携	・学校統一の掲示物の全学級化 ・学級担任と巡回指導教員との情報共有	B	B	B	個に応じた対応を意識しながら指導している。校内研究と連携し、特別活動の時間の掲示物を統一して取り組んでいる。	B	学校統一で何かを行うことは、大事であるが、学年や先生の様子や持ち味を消すことのないように取り組んでほしい。	B	学級担任と巡回指導教員の情報共有は盛んに行われた。校内での統一した掲示物については、特別活動中心で行った。	B	児童同士の受け入れという点ではおおむねできている。「ユニバーサルデザイン」という言葉にとらわれすぎないように。	ユニバーサルデザイン化にする必要性など保護者や地域の方々に理解いただけるよう説明する。
	エンカレッジルーム（特別支援教室）の理解促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発と拠点校としての運営の説明	・学校公開においてエンカレッジルーム保護者会を行い運営について説明を実施	A	A	A	特別支援教室について年度初めに教員に対する研修、夏に指導に対する研修を行い、保護者に対する説明会も実施した。	A	特別支援に関して以前より保護者の意識は変わっていると認めるが、心配や不安がある方にとっては説明の機会は大変である。	A	本校は拠点校ということもあり巡回校の保護者をきめた学習会も行った。担当者と保護者の距離を縮めるよい機会となった。	A	拠点校ということでは、エンカレッジルームということは関係なく先生との関係や雰囲気づくりはできている。	拠点校の強みを生かし、活動内容等を広く紹介する取り組みを継続していく。
不登校・いじめ対応の充実	自己有用感の醸成や相手を手を大切にできる魅力ある学校づくり	・特別活動や道徳及び他教科と関連させた指導 ・年間を通じた挨拶指導	・児童アンケート肯定群80%以上 ・児童アンケート肯定群70%以上	B	A	A	特別活動では合意形成を中心にお互いを大切にする取り組みをしている。朝の校門での挨拶を中心に普及活動をした。	B	学校で挨拶の活動を行っているが、なかなか地域での成果が見られない。引き続き力を入れて取り組んでほしい。	A	自分のよいことが分かるの肯定群は81%、友達によさに気付く肯定群は90%、保護者の挨拶に関する肯定群は72%	A	登校時の玄関での挨拶はしっかりできている。道で会うと挨拶をされる。保護者への案内や協力が今後の課題	挨拶を「いつでも・どこでも・誰とでも」を目標に更なる向上を目指す。
	hyper-QUの活用による児童理解の促進	hyper-QUの実施による、感覚だけでなくデータも活用した多角的な児童理解	・学級満足度要支援群の出現10%未満 ・児童アンケート肯定群90%以上	B	B	B	児童を教師の見取りだけに頼らず、科学的な見地など、多様な視点で見ようとする意識が高まった。	B	児童を様々な視点から見ていくことで、間違えや、思い込み等を排除できることはよい。十分に活用してほしい。	C	年間2回実施することで、変容を確認し指導に生かされはよいが、1回の実施にとどまった。	B	データの活用や実施の方法を検討すべき。目標の達成度が明確でない。	hyper-QUへの取組について再度校内で検討して、活用方法も合わせて検討していく。
	教育相談体制の強化	・ふれあい月間の実施 ・5年生への全員面談の実施	・年3回のふれあい月間による確認 ・いじめ防止授業の提案と実施	B	A	A	ふれあい月間での児童や教職員に意識化ができた。いじめはあるという意識のもと早期発見と早期対応を心掛けて取組んだ。	A	いじめはあるものという認識と早期発見と対応する姿勢は引き続き継続してほしい。	A	いじめ防止に対する情報の配信、いじめを題材にした全学年での道徳授業の実施など、様々な工夫して取り組んだ。	A	今後いじめのとりえ方等に関する保護者との共通理解を進めるべき。	各教員ともいじめに対して敏感に対応しており、引き続き未然防止や早期解決に努める。
地域に開かれた学校の実	学校ホームページや連絡メールの充実	・ホームページの定期的な更新 ・連絡メールの文書配信	・毎月1回以上の内容の更新 ・配布物の配信化と状況に応じた情報の発信	B	B	B	行事等でのHPへの掲載やテロップ配信を中心にできるだけ、情報発信を行った。	B	日光など行事の様子をHPを活用してすぐ上げているのはとても良いが、定期的に記事を配信できるとさらによい。	B	いじめに関する事項、地域の不審者情報など、保護者に知らせるべき内容を吟味して発信していた。HPは更新をしていく。	B	給食の献立等しっかり更新している。電話に関しては16:45までのため、即対応できる方法があるとよい。	配信、掲載内容は丁寧に確認し、アクセントを付けて行うようにする。
	学校公開の実施と充実	・PTAと連携した保護者参加型の学校公開の実施	・全学年、年1回以上保護者参加型の授業公開を行う	A	A	A	PTAと連携して、児童と保護者が授業内で一緒に活動できる学校公開を1回実施した。	A	PTAと学校が連携して、学校公開を活用し保護者も一緒になって取り組む機会があることはよい。	A	保護者が学校に関わることで傍観者から主体者へという意識を高めるために今後も継続して取り組んでいく。	A	PTA親子懇話会は内容的によくなってきている。町会活動を通して学校と交流をさらに深めたい。	PTA親子懇話会は引き続き連携して行う。地域と交流ができる取組を検討し取り入れていく。
	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	年間3回の学校評議員との話し合いと中間評価、最終評価の公表	保護者アンケート肯定群80%以上	B	B	B	学校が何を考え、どのような活動をしているかについて説明し、授業公開で、実情を見ていただいた。	A	学校公開日の設定のため、説明内容と児童や学校の様子について見ることでよく分かった。	B	評議会と学校公開の日程だけでなく、学校評価の内容についての吟味等をより深くできるようにしていく。	A	評議員への説明をさらにしてほしい。学校公開時の会議では児童の様子や学校の状況が分かるので、よい。	学校評議員会の開催方法や協議内容を精選し、現行の開催回数で効率のよい内容の会にする。
特色ある教育の展開	「なかよし班活動」の取組による思いやりの心の育成	・月1回以上のなかよし班活動の実施	・児童アンケート肯定群80%以上	B	A	A	縦割り班で活動することの楽しさや、お互いが思いやる気持ちを高められるよう活動する。	B	学年の垣根を越えて活動することは、責任感を高め学校としてまとまると思うので、継続して取り組んでほしい。	A	なかよし班の活動がとて楽しい、楽しいという肯定群は82%で、なかよし班のよさを理解できる活動であった。	A	昔と比べ児童数が少ない現状では、学年を超えるコミュニケーションはよい。思いやりの気持ちが育まれるよい機会。	次年度も特別活動を大切に、各学年との交流の機会を意識して取り組む。
	「北小田んぼ」「北小さくら」を中心に地域と連携した学習	・教科学習において鶴岡市の方や桜保存会の方と連携し学習を実施	・ゲストティーチャーを招聘した学習を実施	A	A	A	1学期に5年生で鶴岡市の方から授業でご指導をいただいた。3年生が2学期に入り桜保存会の方をお呼びして授業を行った。	A	特色ある教育を継続して実施できていることは喜ばしい。今後も取り組みを続けてほしい。	A	出前授業や校外学習は好きかの児童アンケートでは93%が楽しいとしており、本校独自の内容とやり方を確立していく。	A	自身の体験による学びは貴重なことなので継続してほしい。様々な経験ができるよう機会が増えることよい。	学校が取り組みたいことを発信して、主体的に人材を探るようになっていく。